



屋久島森林環境シンポジウム開催 ヤクシカとの共存など議論

3月6日、屋久島町において、

屋久島森林環境シンポジウム
「屋久島世界遺産の危機と保全」
が開かれ、約150人が参加し

食圧により貴重な生態系や生物
多様性に深刻な影響などが見ら

れることから危
機状況に陥っ
ている屋久島の
生態系や生物多
様性の維持・
回復を図るには、
今後の対応策な
どについて多く
の方々の協力を
得て、協同して
対応していくこ
とが必要である
ことから、ヤク
シカの屋久島世
界遺産地域の貴
重な生態系や生
物多様性に与え
ている影響につ
いて報告をいた
だき、議論を行
うことを通じて
この問題への理
解を深めていた
だくことを目的

として開かれた
ものです。
本シンポジウ
ムは、第一部/
報告・講演、第
二部/パネルディ
スカッションの二部構成で行わ
れ、第一部の報告・講演では、
当局の濱田秀一郎自然遺産保全
調整官から屋久島におけるヤク
シカの被害と対策の現状につい
て総合的な報告を行ったあと、
専門の立場から4人の方に講演
をいただきました。講演内容は、
塩谷克典氏(財)鹿児島県環境技
術協会技術部環境生物課参事か
ら林分構造とシカ個体群動態の
関係や島嶼における適正個体数
維持の困難性、矢原徹一九州大
学大学院理学研究院教授からヤ
クシカの増加により希少植物の
絶滅の危機に瀕している状況・
現状や対策について科学者の間
でもしっかりとコンセンサスを
得る必要性、三枝豊平九州大学
名誉教授からシカの採食で減少
した草本・灌木に依存する植食
性昆虫の減少やシカの排泄物や
死体に依存する昆虫類の増加な
どシカが生物多様性に与えてい
る影響、松田裕之横浜国立大学
大学院環境情報研究院教授から
屋久島を3つの地域に分けてシ
カの個体数を管理する案などに

熱心にパネルディスカッションに聞き入る参加者＝屋久島町

この問題への理
解を深めていた
だくことを目的

また、会場の参加者約50人か
らアンケート調査した結果では、
シンポジウムの感想として約83
%の方がわかりやすかった、シ
カ被害の現状や対策の必要性に
ついて約85%の方がよく理解で
きたと回答がなされました。
今後、屋久島世界遺産地域の
ヤクシカ被害対策に関しては、
管理機関である環境省、鹿児島
県、屋久島町、九州森林管理局
などの関係機関と地元住民など
多くの方々の協力を得て協同し
て対応していくこととしていま
す。

(担当)指導普及課



自警の名山

熊本森林管理署

低用森林事務所森林官

大山 昭一

木原山は、熊本市、宇土市にまたがる山で雁回山の名で親しまれています。市内から近く地理的にも恵まれており、「県民の憩いの森」に指定され、また、水源かん養保安林、保健保安林、風景林にも指定されています。木原山の麓には住宅が密集し、

県民の憩いの森 標高314メートル「木原山」

生活に欠かせない良質で豊かな水の供給と洪水の防止、ハイキングなど保健休養の場となっています。

木原山は、中生代白亜紀の固結度の高い礫岩からなる低山生の山で、標高は314メートルです。山麓の木原城は為朝城跡と言われ、弓の名人西八郎為朝にまつわる伝説があります。為朝は弓の名人で、為朝が山の上を飛ぶ雁を討ち落としたことから、雁が山を避けて遠回りをして飛んだことから雁回

山と呼ばれるようになったと伝えられています。

山頂まで7方向の登山コースがあり、各コースの距離は約1・3キロから2・6キロとゆっくりに歩いても約1時間で頂上に着きます。メインコースを紹介します。成田、東京目黒と共に日本三大不動尊の一つとされる雁回山長寿寺木原不動尊入口から入り、林道を歩くと登山標識が見えてきます。始めは平坦で、谷を数回横切り人工林の中を歩いていくと地藏堂とお地藏さんが多数ある灌行場や石祠が設置されています。さらに進むと第一展望台があり、熊本市街地や有明海、八代平野を一望できます。また、近くには第二展望台、



宇土市内から見た標高314メートルの木原山の遠望



一の滝



木原山からの遠景

東屋、トイレ・休憩舎が設置されています。小川のせせらぎを聞きながら野鳥との出会いはいかがでしょうか。この時期（4月～7月）シロバナオドリコンソウの観察などを楽しむことができます。近くには六殿神社、じゅん菜の池、奥の院などの名所もあります。遊歩道をちょっと寄り道して、一の滝・二の滝、鬼の岩屋などを楽しむのも良いでしょう。都市近郊にあり、不知火海など周囲360度見渡せる木原山（雁回山）が貴方をお待ちしています。

唐津小児童森の働きを学ぶ

【佐賀森林管理署】緑の少年団の引継ぎ式に併せ唐津市立東唐津小学校において、森林教室を行いました。家庭や学校などで使用されている木材や自然災害から私たちを守るっている森林の働きについて学び、その中で、隣接している虹の松原の飛砂や潮害から街を守る働きについて、署員手作りの松原の模型を使った実験で学びました。樹名当てクイズでは、珍しい名前前の木の問題に元気よく答え、吉田校長先生から、森林について多くのことを学びこれからも虹ノ松原の松葉かきの保全活動に参加していくことなどのあいさつがありました。



クイズに元気に答える児童たち＝佐賀

早春の矢部路を力走

【熊本森林管理署】当署と山都町教育委員会主催で「自然愛護の心と緑豊かな故郷への愛着をタスキにつないでいこう」と愛林駅伝大会が開かれました。昭和31年に第1回大会が開始され今回で56回を数え「愛林」と名の付く駅伝は、全国でただ一つと聞いています。今回からはコーズ・区間が一新され、町内外から昨年を上回る7校16チームが参加し、健脚を競いました。結果は、甲佐中が1区から終始トップを譲らず2連覇を果たし、大いに盛り上がった大会となりました。



一斉にスタートを切る参加チーム＝熊本

工夫を凝らし流域連携

【宮崎北部森林管理署】延岡

地区森林組合において、五ヶ瀬川流域森林・林業活性化センター



プロジェクトで意見交換する関係者＝宮崎北部

と連携して、流域連携プロジェクトの意見交換会を行いました。活性化センターや関係市町村の担当者、林業技術士会などが参加。流域管理指導官の結果報告後の意見交換では、予算が厳しい中でも事業の継続が必要という意見が出され、来年度以降も工夫を凝らし、森林管理署や活性化センターなどと連携していくことを確認しました。

森林づくりで植樹

【鹿児島森林管理署】国有林をフィールドとした、九州電力主

催の植樹祭が、「植樹ボランティアふるさとの森林づくり」と銘打って開かれました。今回は4回目、最後の植樹となり、約1・1500人が参加しヤマザクラなど11000本が植栽されました。当署職員が植樹指導にあたり、式典では山部哲経署長が国際森林年に当たる記念すべき植樹祭に謝意と祝辞を述べました。参加した子供らも元気よく植え付けを行い、4年間で6300本に、43000本の植樹が行われました。



元気よく植樹する参加者＝鹿児島

森づくり団体の分収林契約

私たちの森づくり活動は、「水を考える会」という環境団体の中から生まれた。活動の中で、水にとって大事な森に目を向けようという機運が高まり、平成8年7月発足し、翌年3月最初の植樹を実施した。都城市の青井岳国有林約1畝に2000本余りの広葉樹を植え、「わくわくの森I」と名付けた。森林管理署との契約は80年の分収林契約である。その後7月、9

月の下草刈、翌3月の春の整備を実施し、下草刈がさほど手がいらなくなった6年後のライフ

ました。「わくわくの森II」も「I」と同様、手入れを続け、さほど手がいらなくなったので

さて、国有林の分収林契約から、ライフサイクルの森、そして町有林とフィールドの契約は3カ所とも違うこととなった。森づくりボランティア団体として国有林との契約は、分収林もライフサイクルも違和感がありながら、当時の限られた選択肢の中から契約、承認を受けてきた。現在の制度では「ふれあいの森」や「森林の整備保全に関する協定」があるようだが、いずれも「社員、お客様などによる」「企業の社会貢献として」



水源の森づくりをすすめる

市民の会
事務局 長
前原 満之さん
今年の3月「わくわくの森III」植樹を実施した。今回は、水源の森づくりと同時に環境教育の場としても活用したいとの思いから里山的イメー

ジのフィールドということで、綾町の町有林を提供いただいた。0・74畝に1940本の広葉樹である。

サイクルの森として平成15年、宮崎市石坂国有林に「わくわくの森II」を設定、0・7畝に1450本の広葉樹の植樹を行い

樹である。

など企業にこだわり過ぎたうたい文句が、森づくり団体としてはいまひとつしっくりこない。



くわくの森I」と名付けた。森林管理署との契約は80年の分収林契約である。その後7月、9

サイクルの森として平成15年、宮崎市石坂国有林に「わくわくの森II」を設定、0・7畝に1450本の広葉樹の植樹を行い

樹である。

など企業にこだわり過ぎたうたい文句が、森づくり団体としてはいまひとつしっくりこない。

災害被災地へ支援物資を発送



支援物資を積み込む関係者の皆さん

九州森林管理局では、東北地方太平洋沖地震による災害被災地を支援するため、各森林管理署などや関係団体の協力を得て支援物資を調達。東北森林管理局および関東森林管理局へ送付しました。

特に東北地方に対しては、九州全域から集めたカップ麺約11000食、ガソリン携行缶約140缶、その他乾電池やティッシューパーなどを3月23日東北森林管理局へ向け発送。3月

25日には現地へ到着し、各避難所などへ配布されました。
(担当川総務課)

ました。参加者は日ごろ触れることの少ない森林・林業に対する理解を深め、満足の笑みがこぼれていました。



植樹する参加者＝宮崎北部

【宮崎北部森林管理署】都市部の人々に森林・林業の重要性を理解してもらうために森林・林業体験ツアーを実施。日向市商工会会員や日向市役所職員など14人が参加しました。流域管理調整官がシカ被害の現状について説明後、耳川広域森林組合諸塚加工センターや民有林の伐採現場を見学。お倉力浜国有林では参加者全員で植樹を行いました。最後に諸塚村産直住宅を見学し、無事ツアーを終了し

かけ、木々や草花のなんともいえない懐かしい山の匂いに気分もリフレッシュさせてもらい家路に着いていました。

私は林業に携わったことはありませんが、森林の持つ役割は

来たときよりも美しく

森林・林業のすばらしさを実感しています。

「水源のかん養」「地球温暖化防止」「水害防止」など地球環境を守るための大きな役割を持つており、整備する必要があると思えます。えびの高原では鹿が増えすぎ、森林管理署職員の方々

これからも自然保護に務め「来たときよりも美しく」を motto に実行していきたいと思えます。

(宮崎県都城市在住)



渡辺 孝二さん



モニターに応募した理由は、兄弟姉妹と一緒に参加してみたい?」の一言からでした。私は熊本の山育ちで家から南側を見

8年前に退職してからは、機会があれば山にハイキングに出

日曜日になると毎に弁当を作ってもらい友達と、あけび・山菜・山芋など山の恵みを採りに行ったものでした。しかし、社会人になり故郷を離れてからは、いつしか山のことも忘れていました。

「水源のかん養」「地球温暖化防止」「水害防止」など地球環境を守るための大きな役割を持つており、整備する必要があると思えます。えびの高原では鹿が増えすぎ、森林管理署職員の方々

これからも自然保護に務め「来たときよりも美しく」を motto に実行していきたいと思えます。

地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定及び変更の公表について

「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」の策定及び変更の公表について、九州森林管理局HP (http://www.rinva.maff.go.jp/kyusyu/) をご覧ください。

- 【第4次計画策定】佐賀東部、長崎南部、天草、耳川、始良、熊毛、
- 【第3次計画の変更】遠賀川、筑後部、矢部川、佐賀西部、長崎北部、緑川、球磨川、大分北部、大分中部、大分西部、五ヶ瀬川、一ツ瀬川、大淀川、大隅
- 【第4次計画の変更】対馬、白川・菊池川、大分南部、広渡川、北薩

阿蘇の民有林直轄治山事業が概成 地域で暮らす人びとの安心・安全を確保

3月3日、阿蘇市一の宮町において、阿蘇地区民有林直轄治山事業の概成に伴い、沖修司九州森林管理局長、下林恭熊本県農林水産部次長、佐藤義興阿蘇市長のほか関係者が出席し、治



阿蘇地区民有林直轄治山事業 引継ぎ式

握手する関係者（左から局長、熊本県次長、阿蘇市長）

山施設の引継ぎ式を行いました。阿蘇地区民有林直轄治山事業は、阿蘇根子岳から中岳に至る北側斜面の民有地において、昭和55年8月に発生した集中豪雨災害の復旧のため、事業費の総額が50億円を超えたこと、および高度の技術が必要とすることから、熊本県の要請を受け、昭和57年度に国の直轄治山事業として着手しました。

事業は、平成2年（死者11人）と平成13年の大規模な土砂災害の復旧を図る目的で全体計画を変更し、事業規模を拡大・継続してきました。今年度末までに治山ダムを435基設置するとともに山腹工192鈔を行うなど、138億円の仕事費が投入されました。事業の予定期間は、平成22年度末となっております。事業の進捗率や事業の効果調査結果などを検証し、全体計画の目的を達成できたことと判断されたことから事業を完了することとしたものです。

当日は、治山施工地内において、関係機関によりソメイヨシノの植樹と記念碑の除幕を行いました。その後、阿蘇市一の宮就業改善センターに移動し、「平成23年4月1日以降は、施工区域内に設置された治山施設

の維持管理を九州森林管理局から熊本県に引き継ぐ」という内容の引継書に、沖局長、下林熊本県次長、佐藤阿蘇市長（立会人）が署名を行いました。

沖局長は、「現在では山腹崩壊地や溪流荒廃地のほとんどが復旧し、下流域では流出土砂などによる被害も少なくなり、阿蘇地域で暮らす人々の安心・安全の確保が図られたものと思う」と述べ、下林熊本県次長、佐藤阿蘇市長からは、事業の実施や工事関係者の尽力に対するねぎらいや治山施設が整備されたことで阿蘇市民が安心して暮らせるようになったとの感謝のことがあり、概成に伴う行事を終了しました。



平成13年災害直後（黒川本流）



平成20年復旧状況（同上箇所）

国の直轄事業として、29年間に及ぶ阿蘇地区民有林直轄治山事業は、22年度末をもって幕を閉じることとなりましたが、森林整備保全事業計画にうたわれている、国民が安心して暮らせる社会の実現、森林と人が共生する社会の実現、活力ある地域社会形成への寄与という事業の目標は達成できたものと考えています。

（担当 川治山課）



ソメイヨシノを植樹（出席者）

サクラソウを贈呈 池田小6年2組の代表

3月17日、熊本市立池田小学校6年2組の川原響希さん、神鳥翔子さんが当局を訪れ大切に育てたサクラソウの鉢を贈呈いただきました。

同小学校では「花を育てること」で児童の心を育てる。花を贈呈することで地域とのつながりをもつ」などを目的に保護者らの「みどりのボランティア」と同小の「緑化推進委員会」の児童らが協力し毎年取り組んでいるものです。

今回贈呈の花は、昨年6月に種を蒔き、8カ月をかけた大事に



サクラソウを贈呈する川原さんと神鳥さん

育ててきたもの。幼稚園での交流会や一人暮らしのお年寄りとの給食会など学校行事の際に配られ地域の方々に喜ばれています。

贈呈いただいたサクラソウは広報室に飾られ来庁された方の目を楽しませていきます。

(担当＝総務課)

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】「人吉・球磨自然観察会」の森のセミナーを当署会議室で開き、50人が参加しました。講師の環境



講師の説明を熱心に聞く参加者＝熊本南部

省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏が、球磨地域の植物にまつわる民俗風習や、日本全国にある「ユズリハ」に関する生活習慣と調理方法などを話され、幅広く学習することができました。また、シカ食害の現状から植物への影響にも触れ、このままでは、植物生態系の衰退から森林への悪影響が懸念されるなどの提言がありました。



捕獲作業をする参加者＝屋久島

共同で有害鳥獣駆除実施

【屋久島森林管理署】当署管内において屋久島町および地元猟友会と共同でシカ防護ネットを行いました。今回は、森林管理署と屋久島町および地元猟友会の3者協定に基づいたもので3頭の捕獲実績がありました。この取り組みはシカの行動や安

全な取り組みなどの情報・ノウハウの蓄積が重要であり、終了後は意見交換を行い、より効果的な捕獲体制を検討するなど、今後も共同で取り組むことを確認しました。

地元自治体へ防災情報発信

【大分西部森林管理署】当署では、安全・安心の取り組みの一環として、地元別府市に治山工事現地説明会を行いました。当日は、市役所の担当者が国有林野治山事業の実施状況や効果などについて説明。完成した堰堤などの施設を見学した後、意見交換が行われました。別府市から、集中豪雨時に住民から土石流の発生を懸念する問い合わせが多くみられたが、今回の説明を受けて事業の内容や施工効



完成した堰堤を見学する参加者＝大分西部

果など実施状況が良く理解できたとの意見があり、有意義な現地説明会となりました。



被害木を伐倒する児童ら＝長崎

樹木に関心深める

【長崎森林管理署】長崎県対馬市主催による「森林(もり)のつどい」が長崎県対馬市の小茂田浜において開かれました。地域の緑の少年団や島内の小学生親子を対象に、江島森林官による紙芝居「森林からのおくりもの」や、県や市の担当者からマツクイムシや保安林についての説明がありました。また、参加した小学生がマツクイムシ被害木の伐倒・玉切りを体験。その後、森林組合職員による被害木の燻蒸処理の実演後、全員で抵抗性マツの植樹を行い終了しました。

人 の う り こ ぎ

4月1日付林野庁長官発令

然再生担当)

長崎森林管理署長

総務部専門官(契約適正化)

中原一則(宮崎北部森林管理署長)

井良一(長崎森林管理署次長)

署長)

熊本森林管理署長

計画部自然遺産保全調整官(屋久島駐在)

山部哲経(鹿児島森林管理署長)

樋口浩(環境省野生生物企画官)

長)

宮崎北部森林管理署長

計画部自然遺産保全調整官

堀幸夫(林野庁管理課課長補佐)

福岡雅喜(独)森林総合研究所 所林木育種センター九州育種場長)

佐兼林政課)

鹿児島森林管理署長

計画部企画官(自然再生担当)

森本義春(総務課長)

杉野恵宣(計画部上席自然再生指導官(西表森林環境保全ふれあいセンター)所長)

関東局総務部専門官(契約適正化)

西中美芳(長崎森林管理署長)

林野庁管理課管理官

林環境保全ふれあいセンター)所長)

高信好彦(熊本森林管理署長)

計画部上席自然再生指導官(西表森林環境保全ふれあいセンター)所長)

総務課長

山下義治(指導普及課技術開発主任官)

田中則一(職員厚生課長)

計画部企画官(技術開発・普及担当)

職員厚生課長

計画部企画官(技術開発・普及担当)

井廣二(経理課長)

計画部企画官(技術開発・普及担当)

経理課長

計画部企画官(技術開発・普及担当)

迫口親(宮崎森林管理署都城支署長)

計画部企画官(技術開発・普及担当)

支署長)

販売課長

計画部企画官(技術開発・普及担当)

川畑充郎(国有林野管理課長)

計画部企画官(技術開発・普及担当)

国有林野管理課長

計画部企画官(技術開発・普及担当)

濱田秀一郎(計画部自然遺産保全調整官(屋久島駐在))

計画部企画官(技術開発・普及担当)

久島駐在)

総務部専門官(契約適正化)

計画部企画官(技術開発・普及担当)

谷口文敬(計画部企画官(自

計画部企画官(技術開発・普及担当)

古市真二郎(林野庁経営課長)

営対策官)

森林整備部企画官(木材費給対策)

渡邊豊(独)森林総合研究所

林木育種センター九州育種場遺伝資源管理課長)

近畿中国局計画部企画官(技術開発・普及担当)

藤原昭博(計画部自然遺産保全調整官)

宮崎森林管理署都城支署長

工藤孝(販売課長)

福岡森林管理署次長

山部義臣(治山課課長補佐)

佐賀森林管理署次長

黒木興太郎(林野庁業務課企画官)

長崎森林管理署次長

山下和也(治山課設計指導官)

熊本森林管理署次長

佐伯敏光(福岡森林管理署次長)

(独)森林総合研究所林木育種センター九州育種場遺伝資源管理課長

黒川健二郎(大分西部署)

竹崎諒(森林技術センター)

小中原真(佐賀森林管理署)

管秀雄(宮崎北部署)

一高一任(熊本森林管理署次長)

長)

4月1日付森林管理局長発令

計画課部付

一本讓(企画調整室監査官)

治山課課長補佐

赤星良治(森林整備課)

宮崎署都城支署企画官

桑原英隆(屋久島署)

指導普及課技術開発主任官

田中佳晴(指導普及課)

指導普及課生態系管理指導官

古川浩児(沖繩署)

指導普及課森林技術普及専門官

相村英範(長崎署)

国有林野管理課鑑定官

東誠也(国有林野管理課)

森林整備課設計指導官

吉田真佐也(森林整備課)

治山課設計指導官

中嶋紀光(治山課)

熊本署流域管理調整官

中村重和(宮崎北部署)

大分西部署流域管理調整官

山本純也(熊本署)

宮崎北部署流域管理調整官

佐藤英也(環境省)

企画調整室業務係長

高木勝一(企画調整室)

企画調整室情報管理係長

村上國男(佐賀署)

経理課収入係長

岩本英樹(大隅署)

計画課経営計画第一係長

中西雄一郎(森林総合研究所)

計画課経営計画第五係長

齊藤政子(宮崎署)

指導普及課緑の普及係長

甲斐孝生(計画課)

国有林野管理課分収林係長

真井正(鹿児島署)

森林整備課林道計画係長

有吉正司(森林整備課)

森林整備課林道実行係長

高津忠孝(宮崎署)

販売課企画係長

奥村克(熊本署)

治山課企画係長

一口哲美(治山課)

治山課調整指導係長

井孝次(長崎署)

治山課審査係長

吉田正一(福岡署)

森林技術センター森林技術専門官

谷稔(森林技術センター)

福岡署総務課長

杉野隆二(企画調整室)

熊本南部署総務課長

江藤幸二(林野庁)

宮崎南部署総務課長

草野秀雄(鹿児島署)

鹿児島署総務課長

瀬戸寛(福岡署)

長崎署業務課長

小糸照雄(総務課)

熊本署業務課長

渡邊健一郎(長崎署)

西都児湯署業務課長

新規採用者紹介

当局では4月1日付けで、Ⅱ種2人、Ⅲ種2人を採用し、次のとおり配属しました。

Ⅱ種(林学)

管秀雄(宮崎北部署)

Ⅲ種(林業)

竹崎諒(森林技術センター)
小中原真(佐賀森林管理署)

長い間ご苦労さまでした

◇定員内職員◇：20人

- 山根義人（総務課）
- 吉田祥一（総務課）
- 山本一二（計画課）
- 岸川正博（森林整備部）
- 永吉国視（森林整備部）
- 上山尋海（森林整備課）
- 花崎英一（治山課）
- 才保敬二（福岡署）
- 坂本久良（長崎署）
- 山下修（熊本南部署）
- 平生健久（熊本南部署）
- 日笠富生（熊本南部署）
- 桑原五男（熊本南部署）
- 佐藤美喜（大分西部署）
- 落合三郎（宮崎北部署）

堀利一（宮崎署）

- 宮園義己（宮崎署）
- 下山英俊（都城支署）
- 末富敬啓（都城支署）
- 加島幹男（沖繩署）

◇定員外職員◇：22人

- 服巻成典（佐賀署）
- 村上秀男（熊本署）
- 長崎賢二（熊本署）
- 緒方篤美（熊本署）
- 那須和廣（熊本南部署）
- 末崎照彰（大分西部署）
- 成瀬由人（大分西部署）
- 衛藤正一（大分署）
- 小野富士男（宮崎北部署）
- 甲斐重行（西都児湯署）

黒木良一（西都児湯署）

- 永友正（西都児湯署）
- 竹野育男（宮崎署）
- 川越修一（宮崎署）
- 佐々木佐平（宮崎署）
- 川上佐一郎（宮崎署）
- 古川義久（都城支署）
- 池井周造（都城支署）
- 米森文徳（都城支署）
- 久保田定昭（北薩署）
- 米澤栄光（北薩署）
- 上原誠（大隅署）
- 3月15日付森林管理局長発令
- 藤原麻紀（都城支署）
- 3月31日付森林管理局長発令
- 須本節夫（屋久島森林環境保
- 岩下昭二（鹿児島署）

全七ノタ一

大倉浩一（長崎署）

宮崎北部署経理係長

高岡勝美（大分西部署）

宮崎署経理係長

河合さつき（西都児湯署）

屋久島署経理係長

水野由芽（森林整備課）

大分署経営係長

川原博（国有林野管理課）

大隅署経営係長

福山親幸（屋久島署）

屋久島署経営係長

深田成人（大隅署）

大分西部署森林育成係長

廣田光春（大分署）

大分署森林育成係長

山中亮（企画調整室）

福岡署販売係長

武藤良助（福岡署）

長崎署販売係長

松井弘喜（大分署）

熊本署販売係長

高本宗昭（大分署）

大分署販売係長

石原拓弥（屋久島署）

宮崎北部署販売係長

吉田貴博（宮崎署都城支署）

長崎署土木係長

立山計司（大分署）

熊本南部署土木係長

後藤誠也（大隅署）

大分署土木係長

山下裕之（鹿児島署）

宮崎署土木係長

柿本一宏（熊本南部署）

鹿児島署土木係長

針持秀一（大隅署）

大隅署土木係長

藏富英典（屋久島署）

屋久島署土木係長

歌野昭彦（大分西部署）

沖繩署森林ふれあい係長

濱田巧（福岡署）

宮崎南部署管理係長

古川祐美（宮崎南部署）

大隅署管理係長

平松大志（森林技術センター）

沖繩署管理係長

岡田有帥（計画課）

長崎署治山第一係長

峯良彦（長崎署）

屋久島署治山第一係長

松永和久（鹿児島署）

長崎署治山第二係長

笹原秀司（長崎署）

熊本署治山第二係長

前川康弘（熊本署）

鹿児島署治山第二係長

西山太英（屋久島署）

長崎署治山事業所主任

林田誠（宮崎署都城支署）

宮崎署都城支署治山事業所主任

中村健一（長崎署）

熊本署首席森林官

日田仁志（販売課）

熊本南部署首席森林官

- 岡本政秀 (佐賀署)
- 宮崎北部署首席森林官
- 井上信義 (国有林野管理課)
- 熊本南部署首席森林官
- 岩本信也 (熊本署)
- 大分西部署首席森林官
- 古城義夫 (北薩署)
- 宮崎北部署首席森林官
- 山邊隆広 (計画課)
- 宮崎署都城支署首席森林官
- 大平留男 (宮崎南部署)
- 北薩署首席森林官
- 森永敏朗 (森林整備課)
- 沖繩署首席森林官
- 田中清公 (宮崎署都城支署)
- 熊本南部署森林官(上席)
- 池田稔 (宮崎北部署)
- 長崎署森林官(上席)
- 本山巖 (大分西部署)
- 熊本南部署森林官(上席)
- 賀納清 (宮崎南部署)
- 大分西部署森林官(上席)
- 秋吉新一 (大分署)
- 大分署森林官(上席)
- 田上俊久 (福岡署)
- 宮崎南部署森林官(上席)
- 宮本和美 (森林技術センター)
- 北薩署森林官(上席)
- 坂橋祐二 (経理課)
- 福岡署森林官
- 真野康彦 (長崎署)
- 那須芳広 (大分署)
- 高倉博文 (宮崎署都城支署)
- 佐賀署森林官

- 森浩 (計画課)
- 長崎署森林官
- 宮島貴文 (屋久島署)
- 熊本署森林官
- 小園英行 (森林整備課)
- 熊本南部署森林官
- 今井隆 (宮崎署都城支署)
- 村木信一郎 (北薩署)
- 大分署森林官
- 佐藤健介 (屋久島署)
- 田中優哉 (沖繩署)
- 西都児湯署森林官
- 出田正哲 (福岡署)
- 日向潔美 (林野庁)
- 宮崎署森林官
- 岩下正斉 (宮崎署都城支署)
- 梶丸正幸 (宮崎南部署)
- 宮崎署都城支署森林官
- 大石成人 (計画課)

- 内場司 (熊本南部署)
- 水本博充 (北薩署)
- 柿田憲司 (鹿児島署)
- 宮崎南部署森林官
- 田中善成 (大分西部署)
- 岩下清美 (大分署)
- 引地修一 (西都児湯署)
- 川野等 (屋久島署)
- 北薩署森林官
- 宇戸正 (宮崎北部署)
- 黒谷幸樹 (大隅署)
- 鹿児島署森林官
- 柏木光裕 (熊本署)
- 大隅署森林官
- 竹之内彰 (北薩署)
- 屋久島署森林官
- 藤井佑介 (佐賀署)
- 原口梨沙 (宮崎南部署)
- 樋口真土 (屋久島森林環境保

- 全七ノタノ
- 嘉門洋介 (林野庁)
- 宮崎署課付
- 山部紗耶佳 (宮崎署)
- 総務課
- 清田誠 (大分西部署)
- 経理課
- 榎木野俊昭 (宮崎南部署)
- 計画課
- 大山昭一 (熊本署)
- 坂本法博 (西都児湯署)
- 指導普及課
- 小谷豊 (熊本南部署)
- 国有林野管理課
- 歌野博幸 (沖繩署)
- 森林整備課
- 松下俊二 (熊本署)
- 岡井邦仁 (大分署)
- 治山課

- 田上誠 (屋久島署)
- 長崎署
- 河津陽平 (熊本南部署)
- 熊本南部署
- 永野達也 (大隅署)
- 大分署
- 伊藤明雄 (林野庁)
- 西都児湯署
- 古川さおり (鹿児島署)
- 宮崎署都城支署
- 水本利香 (北薩署)
- 北薩署
- 柏木和美 (経理課)
- 下田悠介 (屋久島署)
- 鹿児島署係員
- 東智美 (北薩署)
- 大隅署
- 松永直人 (長崎署)
- 屋久島署
- 古川拓也 (西都児湯署)
- 林野庁出向
- 江邑駿介 (屋久島署)
- 森林技術総合研修所出向
- 末藤忠治 (熊本南部署)
- 栗島晋司 (宮崎南部署)
- 近畿中国局出向
- 尾山淳 (宮崎北部署)
- 四国局出向
- 濱口修次 (屋久島森林環境保
- 島根県出向
- 東度考太 (宮崎署都城支署)
- 環境省出向
- 堂蘭理一郎 (指導普及課)



課内職員は、私たちのことを「おれんじ三兄弟」と呼ぶ。(呼んでいた)

次男が佐敷駅から、長男は日奈久温泉駅、

三男が肥後高田駅からおれんじ鉄道で通勤している。

肥薩おれんじ鉄道は、2002年にJRから経営移管され八代駅と川内駅間を第3セクターで運営されている。

おれんじ三兄弟

利用して、三兄弟の親睦を

深めるための懇親会を開催したりと楽しいこともある。

また、昨年10月の八代全国花火大会に、三兄弟家族で料理を持ち寄り、舌鼓をうちな

オレンジ鉄道になったことから、列車本数が減少し、八代駅で乗り替えのための待ち時間が長いことなど不便ではあるが、帰りには、待ち時間

から観覧し大いに親交を深めた。そして、「おれんじ三姉妹」も誕生した。

電車通勤もなかなか大変であるが、いい思い出となる。

4月1日付けの異動で三男が他課へ転出したが、おれんじ三兄弟は健在である。

おれんじ三兄弟もいつまで続くのか分からないが、解散してからも末永くお付き合いをお願いしたい。(元職員厚生課長 田中則一)

新庁舎が完成 木材の質感ただよう

昨年10月から旧庁舎敷地に建設していた熊本森林管理署の新庁舎がこのほど完成。3月15日の新庁舎落成式は、東北関東大震災の被災者に配慮しつつ簡素に行われました。

旧庁舎は昭和38年3月に建設歲月の流れとともに老朽化が著しいことから今回新築の運びとなったものです。

新庁舎は、木材の質感が際立つよう外観は板金との組み合わせ



完成した新庁舎＝熊本森林管理署

せて構成された木造平屋建て。敷地面積3512平方メートル、延べ床面積438平方メートルで、昨年施行された「公共建築物等木材利用推進法」を受け、木材の一部には旧庁舎床の部材（イスノキ）を再利用するとともに、トイレ壁は集成材を使用しています。

また、鉄製書庫類を極力事務室に置かないよう配慮し、木造書庫や木製机を設置するなど使用木材は、構造材52立方メートル、内装材24立方メートルと木材利用の可能性に挑戦した作りとなっています。

これまで120年の歴史を刻んできた熊本森林管理署、現在管理

また、鉄製書庫類を極力事務室に置かないよう配慮し、木造書庫や木製机を設置するなど使用木材は、構造材52立方メートル、内装材24立方メートルと木材利用の可能性に挑戦した作りとなっています。



看板を掲げる局長と署長



サザンカは小さい頃「カテン」

(伊佐市)と云ってツバキと同じように油を取るために種子を拾っていました。凶鑑ではツバキをカタシと呼びサザンカはヒメカタシと呼んでいたと解説されていますが、皆さんの生まれ故郷ではどうでしたか。名前は山茶花(サンサカ)からの転化とも解説があります。

日本原産で佐賀県が北限で耐寒性の常緑小高木です。南九州の森では普通に見られます。

ツバキは花卉の基部が合着しており花全体が落下しますが、

43 サザンカ(ツバキ科)

サザンカは1枚ずつに分かれて散るので花がある時の判別は簡単です。花のない時は葉裏に黒点が無く、子房に密毛があり、

両面中肋に沿って毛があることを確認することで判別できます。葉の葉脈が見えないことも基準になります。

サザンカは園芸種が庭先や公園などたくさん植えられ花の色も多彩です。しかし、野生の花は白色で5枚の倒卵形の花弁が長くのびて平ら(一重)に開きますので、初めて観察される方は驚かれます。花の時期は秋から冬です。さく果は球形で果皮

は厚く、熟して3裂し、中の種子は稜形で黒褐色です。



三月十一日、東北関東地方を襲った激震と津波は、現時点で死者、行方不明者合わせて約三万人近く。家屋や各種施設等を壊滅させるなど過去に類をみない未曾有の被害をもたらした。

犠牲となられた方々のご冥福を心からお祈りしたい。▼諸外国からは、このような激甚な災害にも関わらず冷静さを失わない日本人を絶賛されるが、これを国民性の一言で片付けるにはあまりにも酷である。被災者はすでに極限状態に達している。応急対策を含め目に見える形の対策が急がれる▼震災から間もなく、被災者に対する食料を中心とした支援物資の調達を呼びかけた。九州においても販売に制約がかけられた物もあったが、短期間で相当数を調達いただき、東北地方の避難所等へ無事届けられることができた。関係の皆様へ心からお礼申し上げたい▼桜の時期は別れと出会い、悲しみと期待が混在する複雑な季節。小生も四月に異動。これまで寄稿等本誌の作成にご協力いただいた方々や読者の皆様へ深く感謝申し上げます、更なるご協力をお願いしてお礼としたい。(義)